

事業所名		東京家政大学 児童発達支援事業所 わかくさ		支援プログラム		見直し日		2026 年		4 月		1 日	
法人（事業所）理念		子どもの特性や障がいを保護者とともに理解し、関わり方を一緒に模索しながら、その子が自分らしく生きられるよう支援する											
支援方針		・子どもの人権を十分配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して療育を行う ・保護者に対し、わかりやすく療育の説明を行う ・職員の資質及び事業所全体の専門性の向上を図る ・療育にあたり、知りえた子どもや保護者に対する個人情報の管理を徹底する ・保護者の苦情に対して解決を図るよう努め、苦情解決体制についても説明する											
営業時間		9 時 30 分から 16 時 30 分まで		送迎実施の有無		あり		なし					
		ねらい 支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	・健康状態の維持・改善 ・基本的習慣の獲得				・健康な心と身体を育て、安全・安心して過ごせるよう支援します。 ・基本的な生活習慣のスキルの向上をめざします。 ・タイムタイマーの使用などで時間、バージョン等を使いながら空間をわかりやすく構造化して、気づかせていきます。							
	運動・感覚	・姿勢と運動・動作の技術の向上 ・感覚の特性への対応 ・保有する感覚の総合的な活用				・姿勢の保持や運動や運動・動作がスムーズに行われるようないろいろな遊びをたくさん提供します。 ・自分の身体をイメージし、使いこなせるような活動をたくさんします。 ・感覚の偏りに対して、環境設定の工夫をしながら支援します。							
	認知・行動	・認知の発達と行動の習得 ・空間・時間・数などの概念形成の習得 ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得				・視覚・聴覚・触覚の感覚を使って情報を収集し、行動につなげられるようにします。 ・数・大きさ・長さ・色などの理解を促す支援をします。 ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成につながる遊びを提供します。							
	言語 コミュニケーション	・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・言語の受容及び表出・形成と活用 ・状況に応じたコミュニケーション				・ことばによるコミュニケーションだけでなく、文字や記号、ジェスチャーなど様々な方法を活用しながら意思の伝達が行えるようで支援を考えます。 ・友だちとの関わる中で、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えられるように援助します。 ・絵カードやゲームあそびなどを楽しみながら、言葉や友達への関心を引き出します。							
	人間関係 社会性	・他者との関わり（人間関係）の形成 ・自己の理解と行動の調整 ・仲間づくりと集団への参加				・親子のふれあいあそびなどを行いながら、アタッチメント（愛着）の形成と安定につなげていきます。 ・友達やとの関係構築や集団参加に向けた支援をおこないます。 ・チームワークが必要なゲームや、勝ち負けのあるあそびなどを楽しみながら、集団の面白さを知らせていきます。							
家族支援		・日常の中での困りごとや悩みに対する相談援助 ・保護者会（各グループ） ・就学に向けて先輩保護者を交えた懇談会 ・子育てに関する情報の提供 ・違うグループや卒室した子どもの家庭の交流を図るわかくさ会 ・子どもの発達状況や特性の理解を深めるためのわかくさセミナー				移行支援		・就学にむけて、学校に対し、支援の方法の伝授、および情報提供支援 ・入園にむけての相談や保育園 ・幼稚園との情報共有（移行先との支援計画の共有や支援方法の伝授など） ・保護者に向けて、就学支援シートの作成、就学相談の援助					
地域支援・地域連携		・子どもが通う幼稚園や保育園での日常の姿の見学と支援方法や環境調整等についての情報共有 ・相談支援事業者や、子どもが通う他の事業所との情報共有 ・子どもが係わっている機関との情報連携（健康福祉センター・子ども家庭支援センター、医療機関等）				職員の質の向上		・施設内研修 ・外部研修の受講 ・カンファレンスの実施 ・療育前のミーティングと振り返りの実施					
主な行事等		●誕生会（誕生日にお祝い） ●わかくさ会（卒室児も含めた親子ともに交流する） ●保護者会（年2回程度） ●わかくさセミナー（年に数回）専門分野の講師による学習会											